

## 総務省 翁長 移動通信課長インタビュー

# ローカル5G商用サービスでのケーブルテレビの優位性

ローカル 5G による商用サービスにおけるケーブルテレビの役割と優位性、今年度の総務省「課題解決型ローカル 5G 等の実現に向けた開発実証」の状況、全国キャリアの 5G サービスの展開見通しとローカル 5G への影響について、総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課長 翁長 久氏に聞いた。（取材・構成：渡辺 元・本誌編集長）

### 地域の事業者と ICT をつなぐ ケーブルテレビ事業者に期待

昨年 12 月に使いやすい Sub 6 の周波数割り当てが可能となり、免許申請も着実に増加しています。現在ケーブルテレビ事業者など 75 者から免許申請が出ており審査中で、すでに 66 の方々に本免許を交付しています。

ローカル 5G の利点は 3 つあると思います。第 1 はキャリアによる 5G サービスが開始されていない地域でも自営の 5G を利用できること、第 2 は柔軟にカスタマイズできること、第 3 は免許が必要なローカル 5G は Wi-Fi より安定的に使えることです。

ローカル 5G による商用サービスの普及には 2 つの課題があると思います。第 1 は設備のコストです。もともとローカル 5G の基地局設備はキャリア用設備をダウングレードしたものが主だったため高額でした。しかし最近、いろいろな方々の努力でコストが下がりにつつありますので、高コストの解決は時間の問題だと見えています。

第 2 の課題は、例えば農業など地域のローカル 5G 利用者の多くは ICT に詳しくなく、システムを提供する ICT 企業の多くは農業など利用者の課題に精通していないことです。ただ、ローカル 5G の導入がうまくいく事例もあります。それは利用者と ICT 企業の間をつなぐ優れたコーディネーターがいる場合です。このコーディネーターとして期待しているのは、自治体で ICT と地域の実情の両方に詳しい方、そしてケーブルテレビ事業者の皆さんです。ケーブルテレビ事業者はネットワーク技術に詳しく、なおかつ地域に根ざした事業を展開しているからです。ケーブルテレビ事業者のローカル 5G は、当初はラストワンマイルを無線化する FWA から始まるかもしれませんが、地域の DX を促進するサービスに取り組み始めた事業者も増えてきました。もちろん、全国規模の電気通信事業者の地方支店の方々、地域に根ざした電気通信事業者の方々も活躍されており、これらの方々にも期待しています。

先日、あるケーブルテレビ事業者の方から、地域の DX に向けたローカル 5G の商



総務省  
総合通信基盤局 電波部 移動通信課長  
翁長 久氏

用サービスの取り組みについて話をお聞きしました。すごく一生懸命やられていて、しかも非常に低い金額で提供されていて、素晴らしい取り組みだと思いました。他のケーブルテレビ事業者も商用サービスのさまざまな取り組みを始めようとされています。非常に期待しています。

### 総務省「ローカル 5G 開発実証」 今年度は予算と規模が拡大

総務省ではローカル 5G の周波数割り当て、制度改正とともに、ロールモデルを作るために「課題解決型ローカル 5G 等の実現に向けた開発実証」を昨年度から 3 カ年計画で実施しています。今年度の予算は昨